



一月(睦月)

歳旦祭(元旦祭)

- ・元旦、氏神さまと隠岐神社において、海士町の発展と町民の幸福をお祈りします。

お日待ち

- ・組ごとに伊勢の神宮の御祭神で日の神さまとも称えられる、天照大御神さまを拝みます。

七草粥

- ・春の七草(セリ、ナズナ、ゴギヨウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ)をお粥に入れて食します。体調を整えるとともに、万病を防ぐ効果があるといわれています。

十日恵比寿(戎)

- ・豊漁、豊作、産業繁栄の神 恵比寿(戎)さまを拝みます。

とんど焼き(佐義長)

- ・お正月に家にお迎えした歳神さまにお帰りいただきます。古いお神札・お守り、正月飾りや書初めなどをお焚き上げします。

氏神講

- ・組ごとに氏神さまを拝みます。

荒神祭 蛇巻き

- ・秋の収穫を荒神さまに感謝するお祭りです。区によっては、藁をなつて作った蛇を荒神が宿る木や石に巻きつけます。

二月(如月)

節分

- ・立春を前に、家々に病氣、災いが降りかからないよう、柊に鯛の頭を差した飾りで家を守り、お祓いの豆まきをします。海士では、なまこを食べる伝統もあります。また近年は歳徳神の在

る方角を向いて太巻きを食べる、恵方巻が流行しています。

立春式

- ・昔の元服に倣い、海士では十五歳を迎える青少年(中学二年生)の前途を祝う式典を行います。

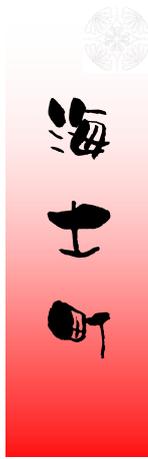
祈年祭(春祭り・大祭)

- ・田植えを前に氏神さまで、豊作と区の発展、区民の健康を祈ります。二月から四月の間に順次行われます。

三月(弥生)

彼岸

- ・祖霊舎や仏壇、お墓を掃除し、牡丹餅などをお供えて先祖の霊を慰めます。なお、春分の日が彼岸の中日にあたります。



四月(卯月)

隠岐神社春季例祭(大祭)

- ・新年度の始まりに、後鳥羽天皇の御神徳の下、海士町が発展するようにお祈りします。祭日の前には、隠岐神社外苑において綱引き大会が開催されます。

六月(水無月)

大祓い

- ・氏神さまの例祭、お盆を迎える前に、半年の間に知らないうちに関わってしまったであろう、罪や穢(気枯)をお祓いします。神社の入り口に茅野輪を作り、これをくぐって参拝しお祓いとする区もあります。

七月(文月)

氏神の例祭(大祭)

- ・氏神さまの御神徳と区の歴史を称えるとともに、区の永続をお祈りします。お神輿の出御、巫女舞などの奉納が行われる区もあります。氏神さまの例祭は、海士町の神社信仰においてもとても大切なお祭りです。

八月(葉月)

お盆

- ・ご先祖さまをお迎えするお盆。仏教伝来以前からの日本の習俗です。お盆には家族、親戚が一堂に会し、先祖の霊に一族の健康を知らせるとともに、かわらぬ守護をお祈りします。

成人式

- ・新成人の自覚を固め、これまでお世話になった方に感謝の気持ちを示す行事です。海士町では八月十五日に、新成人が隠岐神社に参拝します。



九月(長月)

彼岸

- ・祖霊舎や仏壇、お墓を掃除し、御萩などをお供えて先祖の霊を慰めます。なお、秋分の日が彼岸の中日にあたります。

十月(神無月)

隠岐神社秋季例祭(大祭)

- ・稔りの秋にあたり、後鳥羽天皇の御神徳の下、海士町が発展し

たことを感謝します。当日には、奉納行事としてこども相撲大会が開催されます。

十一月(霜月)

新嘗祭 食の感謝祭

(秋祭り・大祭)

- ・稲刈りの後、一年を過ごせたことを氏神さまに感謝するお祭りで、十一月から十二月の間に行われます。隠岐神社では、観光協会の主催する「食の感謝祭」の開催日に行います。お祭りには、町内の農業、漁業団体の代表が参列します。また、境内では、直会として町内の食材が格安で提供されます。

七五三

- ・お子さまの成長を神さまにご覧いただくとともに、これからの守護をお祈りするお祭りです。

十二月(師走)

靈祓い

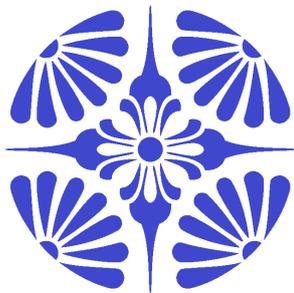
- ・新年を前に、食卓に恵みを与えてくれた火の元に感謝するとともに、食事をつくってくれた方に感謝するお祭りです。神職が各家庭にお伺いします。

大祓い

- ・新年を迎える前のお祓いです。六月の大祓いと同様、家と氏神さまの正月行事を清々しく行うための大切な神事です。

※彼岸に供えるモチは、春はボタンの花にちなんで牡丹餅、秋はハギの花にちなんで御萩と呼びます。





『隠岐神社社報』

第7号(町内全戸配布号)

隠岐神社の祭典、行事案内

2月・3月・4月の4日

月次祭、神札・守札御霊入の儀

4月14日 春季例祭



隠岐神社の御創建

隠岐神社宮司 村尾 周

かすみゆたかねをいづる朝日かげ

さすがにはるのいろをみるかな

(遠島百首)

大晦日から新年にかけての厳しい天候も、立春を過ぎて和らいで来ました。

平素は、隠岐神社のご神徳の宣揚並びにご神域の維持管理につきまして、格別のご理解とご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。新しい年の初めの歳旦祭においては、皇室の弥栄に合わせ海士町の発展と皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

さて今年は、ご祭神 後鳥羽天皇の御遷幸七九〇年にあたります。後鳥羽天皇は朝権回復を志されましたが、戦いに敗れました。華やかな都から遠く離れた隠岐国海士で、ご在島十九年の後御歳六十歳で崩御されました。その後七百年祭にあたる昭和十四年に隠岐神社が創建されたことから、ともすれば御霊をお慰めする社であるように思われがちです。しかし、あるべき君臣の在り方を説かれた後鳥

羽天皇のお姿を含めたご事跡を顕彰し、そのご神徳を広めることにこそ神社創建の意義があります。

後鳥羽天皇はわずか四歳で御即位なさいました。ご歴代の中でも文武両道に優れ、古来の文化と伝統を大切になさった天皇です。

特に皇室の伝統である和歌の道に秀でられ、中世第一の歌の名手としても知られており、八代集の一つである勅撰『新古今和歌集』は天皇の勅になるものです。

御製「おく山のおどろが下も踏み分けて道ある世ぞと人に知らせむ」には乱世にあつても道理を重んじ生きて行くことの大切さを、また、「我こそは新島守よ隠岐の海の荒き波風心して吹け」には厳しい境遇の中でも己を失わず生き抜く力強さを感じさせてくれます。隠岐のご生活での心の支えは和歌の道といわれており、『遠島百首』を始め『遠島歌合』、『詠五百首和歌』、隠岐本『新古今和歌集』などは改めて注目を集めています。約六千坪の境内には施設も整っており、隠岐島一の規模の神社です。また、「ごとばんさん」と親しみをもつて守られてきた後鳥羽天皇御火葬塚や行在所跡などの

聖跡は、海士町の貴重な文化財産でもあります。そして、この隠岐神社の顕彰と維持管理は、職員や一部の役員だけの仕事ではなく、広く町民の皆さまを始め多くの

方々のお力添えが有つてこそです。

また、今年是我が国の神話をまとめた『古事記』が編纂されてから、千三百年の年にあたります。

島根県においては、古事記編纂千三百年を機として、歴史・文化に彩られる「島根」の魅力を開発する活動を進めており、隠岐県域ももちろん重要な位置にあります。

町内の十五社の氏神さまの由緒・歴史、加えて後鳥羽天皇のご活躍の歴史が、故郷 海士の誇りであることを伝えて行く所存です。

文武両道の神さま

開運・厄除けの神さま

縁むすびの神さま

と称えられる後鳥羽天皇。広く厚い御神徳を戴く隠岐神社は、近年のパワースポットブームもあり、島外からの問い合わせも増えております。予約が必要となりますが、空気が引き締まり、御神威をもっとも発揮するといわれる夜間の特別祈禱もご相談ください。

後鳥羽天皇を敬う

隠岐神社奉賛会会長

石倉 郁郎

隠岐神社の奉賛会を代表して、ご挨拶申し上げます。

後鳥羽天皇の御神徳を伝え、そして隠岐神社に奉仕してゆくことは、海士町民の誇りでもあります。

今から約八百年前、わずか四歳で即位された後鳥羽天皇は、歴代天皇の中でも特に文武両道に秀でておられました。そして、国政の在り方を巡って鎌倉幕府と争った承久の乱の後、この海士町へ御移りになられました。

歴史の本の中には、この乱に敗れたことのみを強調しているものもあります。しかし、後鳥羽天皇を敬う私も海士町民には、まず古来の文化を大切にされた歴代天皇の仁徳を学び、その上で後鳥羽天皇の御生涯を学ぼうとする姿勢が必要ではないでしょうか。

後鳥羽天皇をお祀りするのに相応しい隠岐神社が創建されたのは、今から七十年前のことです。以降、

隠岐神社の神職と町の諸先輩は、後鳥羽天皇の御神徳を広めることに努めてまいりました。

さらに、隠岐神社並びに町内の氏神さまの興隆に資するべく、昨年より、隠岐神社の活動の一つに社報の発行が加わりました。隠岐神社の活動がわかりやすくなった、社報の大切さを知った、等のありがたいご意見も寄せられています。こうした活動を支えて行くのも、心ある崇敬者の大切な務めと存じます。町民一人一人が神社を身近に感じることこそ、後鳥羽天皇を敬い、御神徳を戴く者の正しい姿勢と私は考えます。隠岐神社、そして奉賛会に対する皆さまの更なるご理解とご協力を、お願い申し上げます。次第であります。

隠岐神社特別会員の案内

年会費3,000円

隠岐神社を支えていただけた特別会員を募っています。皆さまの「協力をお願いします。」
問合せ先

隠岐神社奉賛会

電話08514-2-0464

※例祭のご案内を致します。
※社報を毎月お届けします。

シリーズ 隠岐神社の由緒⑤

今回は、祭祀を大切にされる天皇の御姿についてお伝えしました。今回は後鳥羽天皇の文化活動を見たいと思います。

後鳥羽天皇と和歌①

歴代の天皇さまは、文化・伝統をととても大切に受け継がれております。特に、八俣の大蛇を退治された須佐之男命が櫛名田比女（くしなだひめ）と婚姻を結び、新婚宅を建てられた際に詠まれた

八雲立つ出雲八重垣毒辺み に 八重垣造る其の八重垣を

が起源とされる和歌を、天皇さまは折に触れて詠まれています。そこには、国の発展と国民の幸せを祈る大御心を拝察することができます。

さて、和歌に関わる皇室行事に、正月の歌会始があります。宮内庁の紹介によると、人々が集まって共通の題で歌を詠んで披露する歌会は、万葉集による

と既に奈良時代に行われていたそうです。天皇がお催しになる歌会は、宮中の年中行事のほかに、月ごとに催されるようにもなっていました。これらの中で天皇が年の始めの歌会としてお催しになる会を「歌御会始」（うたごかいはじめ）といい、その起源は明らかでないものの鎌倉時代中期、龜山天皇（八十八代天皇）の文永四年（一二六七年）には一月十五日に宮中で歌御会が行われたとの記録もあるそうです。以後、年の始めの歌会の記録が断続的に見受けられることから、現在の歌会始のもととは遅くともこの時代まで遡ることができるとしています。

歌聖とも称えられる後鳥羽天皇は、龜山天皇のわずか四十年前には京都において、盛んに歌会を開き、古今の秀歌をまとめた「新古今和歌集」を編纂、さらに和歌所の設置など精力的な活躍をされておられます。

こうしたことから、今日も続く歌会始に、後鳥羽天皇も大きな影響を与えたと申せましょう。

神社界の活動

皇室をどうやまう活動

天皇陛下がおまつりをされる神殿は、皇居の中にあります。

宮内庁のホームページでは、徳川幕府の居城（江戸城）であったものが明治元年に皇居となり、その内には、天皇后両陛下のお住居である御所をはじめ、諸行事を行う宮殿、宮内庁関係の庁舎、紅葉山御養蚕所などの建物があり、その一角に桃華楽堂などのある皇居東御苑があると紹介しています。

さて、皇居も先の戦争で被災しましたが、終戦直後の十二月、宮城県内の有志が被災修理のため奉仕活動を申し出ました。これを機に、皇室を敬う有志による、皇居勤労奉仕が続いています。歴代天皇をおまつりする隠岐神社でも、島根県の青年神職の代表として、この二月に禰宜が奉仕を致しました。

日本の祝日の意味を伝える活動

世界の国々では、それぞれの文化や歴史に由来した特別な日を「祝日」として定めています。日本も明治時代に現在の七曜に移った後これにならって、お祭りをする日「祭日」、とお祝いをする日「祝日」を定めました。以後、この祭日・祝日は定着していましたが、敗戦の後の占領下で廃止され、新たに法律をつくり、今日の祝日を定めました。

この法律では祝日を、「美しい風習をそだてつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築き上げるために、ここに国民こぞつて祝い、感謝し、または記念する日」としています。祝日の伝統行事は、地域の料理とも関わりが深く、故郷での楽しい思い出をつくる場でもあります。



1月1日	元旦	1月1日	成人の日
2月11日	建国記念の日	2月11日	建国記念の日
3月21日	春分の日	3月21日	春分の日
4月29日	昭和の日	4月29日	昭和の日
5月3日	憲法記念日	5月3日	憲法記念日
5月4日	みどりの日	5月4日	みどりの日
5月5日	こどもの日	5月5日	こどもの日
7月3日	海の日	7月3日	海の日
9月3日	敬老の日	9月3日	敬老の日
10月15日	秋分の日	10月15日	秋分の日
11月3日	体育の日	11月3日	体育の日
11月23日	文化の日	11月23日	文化の日
12月23日	勤労感謝の日	12月23日	勤労感謝の日
12月23日	天皇誕生日	12月23日	天皇誕生日

●祝日には国旗を掲げましょう

隠岐神社の活動

(平成二十二年十二月～二十三年二月)

- ◆十二月二日 海士小の社会科の授業に村尾禰宜が出講
- ◆十二月七日 出雲市で開催された島根県敬神婦人大会に村尾宮司、村尾職員が出席
- ◆十二月十五日 隠岐神社役員 奉賛会役員の出発会を開催
- ◆十二月二十日 後鳥羽天皇に関する中学生の総合学習に村尾禰宜が対応
- ◆一月一日 歳日祭を斎行
- ◆一月七日 裏参道の倒木除去作業
- ◆一月二十七日 神社庁新年祭に村尾宮司が参列
- ◆一月二十七日 神社庁講師会議に村尾禰宜が出席
- ◆二月二日 防火設備点検
- ◆二月二日 後鳥羽天皇に関する福井小の総合学習に村尾禰宜が対応
- ◆二月四日 月次祭を斎行
- ◆二月五日 神社庁の祭式助教研修会を村尾宮司が受講
- ◆二月六日 町内の神社と祭りに関する中学生の総合学習に村尾禰宜が対応
- ◆二月十九日 島根県神道青年協議会の竹島領土平安祈願祭並びに領土問題研修会に村尾宮司と村尾禰宜が宇受賀命神社の総代等とともに参列
- ◆二月二十～二十四日 神道政治連盟主催の皇居勤労奉仕に村尾禰宜が参加

編集後記

◆社報七号にして、役員・総代からの進言もあり、初の試みである町内全戸配布をいた

しました。年に一度程度は実施したいと考えております。

◆歳旦祭の齋行に際しては、町内の有志の方により、境内清掃、篝火焚き、新春祈禱の受付を奉仕いただきました。紙面を借りて御礼申し上げます。

◆今年の冬は予想外の豪雪に見舞われ、特に山陰地方は甚大な被害を受けました。そうした中でも、島前の神社には目立った被害がなく、これも氏子・崇敬者の日ごろの信心・奉仕が天に届いたものと存じます。

◆隠岐神社では島内の小中学校が写生大会を行っています。そうした中、海士小四年生の村尾和葉さんの描いた「隠岐神社の石灯籠」が、島前画作品展において特選を受賞しましたので紹介します。



隠岐神社の石灯籠 海士小 4年 村尾 和葉